

除草作業中の事故に要注意

草刈りによる飛び石事故は、平成 2 2 年度管内の工事等事故防止重点対策に掲げています。
除草作業を行うにあたっては、今一度作業内容を確認し、飛び石事故をはじめ、ケーブル切断等公衆災害事故の防止に努め、安全な施工を心がけて下さい。

草刈機のチップが飛び、隣家窓ガラスを破損

除草作業時には、飛散防止対策を確実に実施してください。
飛び石だけでなく、刃（超硬チップ）を飛ばし、民家の窓ガラスを破損する事故が発生しました。

<事故概要>

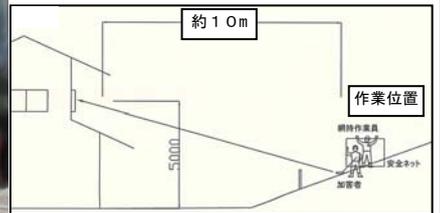
- ・除草作業中、肩掛け式草刈機回転部の刃（超硬チップ）の一部が飛び、約 10m 離れた隣接家屋の 2 階窓ガラスに当たり破損させた。
- ・窓ガラスに 5mm 大の穴、宅内に刃（超硬チップ）の一部が落ちていた。

<事故原因>

- ・法面部の歩行者通路側には飛散防止ネットで防護を行っていたが、家屋側には行っていなかった。



事故再現写真

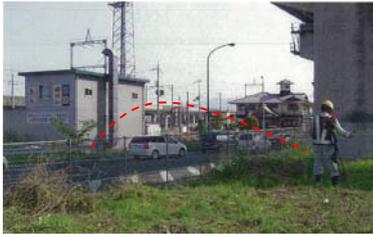


現場断面図

除草作業中事故事例

①一般車両窓ガラス破損

- ・作業ヤードで、草刈機にて草刈り作業中、小石を跳ね飛ばし、現道で信号待ちで停止中の一般車両窓ガラスを破損。
- ・飛散防止ネットの防護を怠ったことが原因。



②ケーブルにも注意

- ・事前に占有物件や作業の支障となるケーブル等の確認を怠ったため、除草機械でケーブルを切断。
- ・作業員の支障物件に対する注意が不十分だったことが原因。



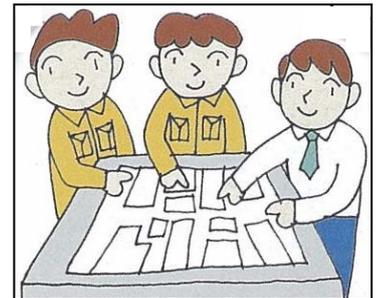
飛び石事故の要因とその対策

要 因	そ の 対 策
①防護ネットをしていたが、それ以上に飛んだ。	→防護ネットの 大きさ・種類 等を適切に選定する。
②防護ネット支持者はいたが、草刈者とのお互いの距離が不適切であった。	→草刈者と防護ネット支持者の距離を 飛散角度に留意 し、適切に保つ。
③防護ネットでの防護を行っていなかった。	→飛び石の 飛距離は、20m 近くになる場合がある ため、必要に応じて防護ネットの配置を行う。

また、作業員はヘルメット、防護メガネ、手袋、安全ベスト等を着用し、安全な施工を行う。

安全な除草作業を行うための対策

- ・配管・配線等の事前調査を十分に行う。
- ・作業前に支障物件に目印を付ける。
- ・単独作業を行わない。
- ・「慣れ」による接触に注意する。
- ・草刈機の安全カバーの状況を確認する。
- ・移動の際は刈歯の回転を止める。



事前に調査、確認する

(裏面につづく)

単管手すりが外れて墜落

<事故概要>

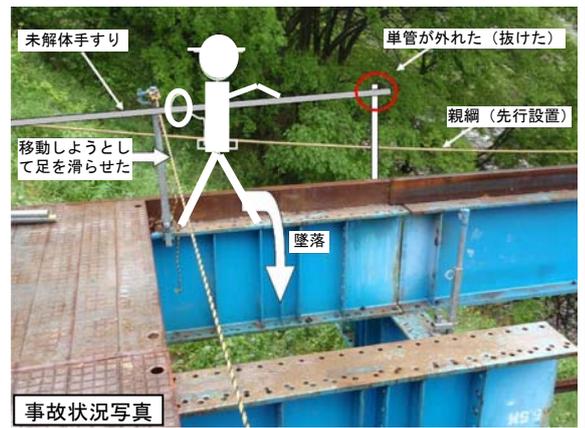
- ・当日は、仮橋の解体作業中であった。
- ・単管手すりを解体するため、工事桁上を移動しようとした際、足元が滑りバランスを崩した。
- ・とっさに単管手すりを掴んだが、支柱から単管手すりが抜けて墜落。
- ・親綱は設置してあったが、単管手すりの外側だったため、安全帯を単管手すりに設置していた。



現場状況写真

<事故原因>

- ・安全帯の使用方法を誤った。
- ・雨天で足元が滑りやすくなっていた。



事故状況写真

<事故防止対策案>

- ・安全帯は適正に使用するように指導する。
- ・作業手順の確認を徹底する。

PC鋼線が送電線に接触

<事故概要>

- ・橋脚にPC鋼線を挿入するため、東側方向からウインチで引っ張っていた。
- ・PC鋼線のスタンド(右写真)からPC鋼線を引き出していたときに、PC鋼線が跳ね、近接する送電線に接触した。



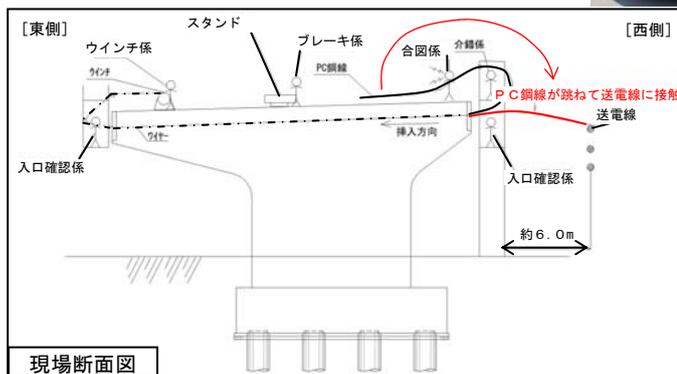
スタンド



事故現場写真



ウインチ



現場断面図

<事故原因>

- ・ウインチ操作者が巻き上げ作業に気をとられ、合図係の停止合図に気付かず、そのまま巻き上げたためにPC鋼線が跳ねた。

<事故防止対策案>

- ・各作業員間の連携を確認してから作業を行う。
- ・送電線の防護を行う。

7月1日～7月7日は 第83回 全国安全週間です

○平成22年7月1日(木)～7月7日(水)は全国安全週間(主唱:厚生労働省、中央労働災害防止協会)です。

○「中小規模事業場におけるリスクアセスメント」を重点テーマにしています。

○墜落・転落災害、建設機械・クレーン等災害、倒壊・崩壊災害等の事故及び熱中症の防止に努めて下さい。

○作業員みんなで積極的に活動し、安全な現場を目指しましょう。



スローガン

『みんなで進めようリスクアセスメント めざそう職場の安全・安心』